

群馬県立西邑楽高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート				総合
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 ※上記の項目に替えて又は加えて、評価対象Ⅱ～Ⅵにおける評価項目や学校独自の項目を設定する。評価項目の設定に当たっては、学校運営や教育活動全般等から、学校の特色や7R・7Cを吟味し、特色ある学校づくりの状況が明確になるように工夫する。 ※各学校に応じた評価項目を加える。	①自分の学校を好きだと感じている生徒の割合が、80%以上である。	・積極的な生徒理解、信頼関係づくりに努め、個の特性に応じた指導により学校生活をサポートする。 ・普通科・スポーツ科・芸術科の特色を生かした学校行事の充実を図り、愛校心の育成に努める。	B	B	B	・多様な生徒への対応、生徒との信頼構築に向けた取り組みを通じ、生徒が学校を好きであるとの回答が80%以上、教職員に対する信頼についても90%以上の達成度であった。次年度以降も本校の役割を踏まえた教育活動に取り組む。	・学校のことが好きである生徒、生徒と先生方の信頼関係があつて、などは素晴らしいことである。 ・学校そのものが特色あるコースを設定しているため、基本ラインはクリアだと思ふ。 ・東毛地区では専科設置がある少ない学校だが、音楽コースの人数が少なく残念である。 ・少人数授業の方が生徒の理解度が高まり学力も向上すると思われるが、アンケート結果を見ると成果が低いため、新たな授業の構築が必要と思われる。 ・生徒・教職員との信頼関係の向上が見受けられる。	
		②習熟度別授業(数学・英語)や専門教科(体育・音楽)の授業に満足している生徒が、85%以上である。	・習熟度授業の特性を活かし、生徒の個性や学力に応じた授業を行い、達成感や成就感を感じさせる。 ・専門教科のもつ面白さを実感させ、各生徒が自ら進んで学べるよう、少人数指導を効果的に実施する。	C	C	C	・少人数授業については数学における充実度が70%を割り込み、昨年度比5%以上の減となっている。生徒の基礎学力の育成に向けた基礎基本の徹底と、生徒の希望する授業の在り方との乖離が課題と考える。 ・専科(スポーツ科・芸術科)の満足度は相変わらず高い水準をキープしている。専科設置の目的、それぞれのカリキュラムポリシー等を踏まえ、専門性の高い人材育成に向けた取り組みを継続したい。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③生徒の発言・発表や活動の場面に授業に取り入れられていて、授業に充実感を感じている生徒が80%以上である。	・情報を的確に理解し効果的に表現する、社会的事象について資料に基づき考察する、日常の事象や社会的な事象を数理的に捉える、自然の事物・現象を観察・実験を通じて科学的な概念を使用し探究する等の観点から発言・発表や活動の場面を組み込むなど、授業についてバイラルアップを図る。	C	C	C	・授業において生徒の発言・発表の場面が多く充実感を感じている生徒は75%を下回り、昨年度比でも5%の減となっている。生徒エージェンシー掲げる群馬の取組みに鑑み、生徒自身の主体的な取り組みを促す場面を増やしていく必要がある。総合的な探究の時間との連携等も行いながら、生徒自身が目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力を高めていけるよう支援する。	・授業の充実、読書、文章を読む力、家庭学習、各種検定など、課題となっている点の改善をお願いする。 ・紙で読書する機会が減っているのは事実なので、高校生になる前に読書習慣が少しでも身につけられるような手立てが必要である。 ・英検・漢検の準2級をまずは目指して欲しい。高校卒業後の自信にも繋がると思う。 ・SNSの普及や読書離れにより、語彙力の低下が懸念されることから、朝の読書時間は貴重な時間と思われる。是非この読書の時間を有効活用していただきたい。 ・生徒の能力UPの指導努力が必要である。	
		④「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。	・「朝の読書」やLHR読書会などをとおして、読書習慣の確立を図る。推薦図書リストを発行し、新着図書の案内等、図書館からの情報発信を実施し、読書の楽しさを幅広く伝えられるよう努める。	D	D	D	・月に1冊程度の読書をする生徒の割合は15%以上減少しており、今年度の評価アンケートで最大の減少となっており、原因の分析と課題への対応策検討が必要である。ただし、生徒だけの問題ではなく、大人もスマートフォンやタブレットに縛られる生活をしていることも事実であり、「文章を読む」「文章を授業に活かす」という状況には危機感を抱いている。朝の読書や授業における教材等を活用しつつ、生徒に文章をじっくり読む力を身に付けさせたい。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤家庭学習の内容の充実を図り、設定した目標値を達成している生徒が60%以上である。(平日、1,2年生は80分、3年生は120分) ⑥日本漢字能力検定並びに実用英語技能検定の合格者が、それぞれ2級15名以上、準2級が50名以上である。	生徒が4つのシート(①学習の目標とそれを達成するための手段、②課題・やること一覧表、③学習量調査、④成績個票と振り返り)を確認・保管することにより、学習のサイクルの確立と次のテストへの取り組みに活かせるよう引き続き声掛けを行う。 ・進路実現のための漢字検定・英語検定の重要性を認識させることともに、目標を高く持ちチャレンジすることの大切さを認識させる。	D	D	D	・継続的な家庭学習習慣が身につけている生徒が依然として少ない。「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒の合計が、一昨年度から24.4%→23.0%→17.0%と減少を続けている。毎年度当初の段階で学習の意義と仕方について繰り返し指導する必要がある。 ・漢字検定は学校での実施をしなくなったこともあり、2級1名、準2級15名。英語検定については2級4名、準2級2名と達成度は低い。検定合格という自身の付加価値を高め、何より自身の学力向上の意味からも受検の意味や重要性を理解するための指導が必要である。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学校生活全般を通じて、あいさつ・身だしなみ・遅刻防止に関する指導を進め、あいさつができるという評価をしている生徒が85%以上である。	・教職員から率先してあいさつし、身だしなみに関する声かけを行うことにより、生徒自ら習慣化できるような学校づくりを目指す。また、登校時や下校時に教職員と生徒が一緒にあいさつや身だしなみ、遅刻防止へ向けた啓発活動を行うことで、生徒が能動的に学校をより良くしようとする意識を育む。	B	B	B	・学校評価アンケートでは、90%以上の生徒が「挨拶、きちんとした服装、言葉づかい、遅刻防止に気をつけている」と回答している。保護者も90%近くの方ができていると回答している。一方で、職員からは「服装や頭髮の乱れ」に関する否定的な意見が出ている。次年度以降も根気強い生活指導を職員一丸となって、校内巡視、登下校時指導を実施するなど、指導を強化していきたい。	・規律正しく、あいさつ、言葉づかいなど、しっかりとできる生徒を育てていただき、感謝する。 ・本来なら家庭や地域で身につけているはずのルールや人権意識が希薄になっている中での指導は、本当に大変だと思う。学校で出来ること・学校では出来ないことの線引きが必要なのではないかと思う。 ・西邑楽高校の制服を着ている自転車通学の生徒でマナーの悪い所を度々見かける。 ・諸問題に対しての取り組み方の強化が必要である。 ・生徒が充実した学校生活を送れるのは、教職員等の影響が大きい。アンケートの結果から教職員の意欲が感じられ、生徒の満足度も高いことから、今後も引き続き頑張りたいと思う。	
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑧学校はいじめの防止や早期発見に積極的に取り組んでいると感じている生徒が、90%以上である。 ⑨教職員全員が、自身の人権感覚を高め、一人一人の生徒を深く理解し、尊重しあう人間関係を育てている。	・毎月1～2回の頻度でいじめ対策委員会を開催し、定期的な生徒情報の共有を図るとともにいじめの未然防止について対策を更新していく。また、教職員が問題意識を常に持ち、課題発見、課題解決するために必要な情報を常にアップデートできるよう、計画的に職員研修を実施していく。 ・様々な情報交換や事例学習等を迅速かつ継続的に行うことにより、個の事象に応じた適切な対応や、生徒も教職員も他者と互いに尊重できる態度の育成を目指す。	B	C	C	・いじめに関する項目では「取り組みを感じる」と回答した生徒が76%程度にとどまった。面談週間の設定やICT端末を利用したアンケートの実施など、生徒が抱える悩みや相談を早期に発見するしくみをより充実させるとともに、教職員向けの研修や、生徒主体の取り組みを定期的に行うなど、いじめ防止の意識向上を学校全体で図っていききたい。 ・学校評価アンケートでは、90%程度の教職員が「自身の人権感覚を高め、一人一人の生徒を深く理解し、尊重しあう人間関係を育てよう努めている」と回答している。教職員向けの研修をより一層充実させるとともに、細やかな情報共有や意見交換できる環境づくりを通じ、互いを尊重できる人間関係づくりに努めたい。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩生活リズムを振り返ることによって規則正しい生活を送り、健康の保持・増進に努めている生徒が80%以上である。	・生活習慣等に関するアンケートを2回実施し、自身の生活習慣を振り返る機会とする。	C	C	C	学校評価アンケートにおいても、生活習慣等に関するアンケートにおいても、生活リズムが整っていない生徒の割合が昨年度よりも増えつつある。未回答の生徒もおり、実際はもう少し多いと思われる。今年度、学校保健委員会で睡眠について取り組んだ結果、90%以上の生徒が睡眠の大切さ等について理解できたことと回答していた。今後、身につけた知識を活かして生活習慣の改善を図っていけるよう保健委員等を利用して指導していく。		
		⑪部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が、70%以上である。	・部活動に加入することの意義やメリット、喜びを多くの生徒が明確に感じられるために、生徒の活躍や活動の紹介を充実させていく。また、教職員や保護者、地域の方々からの応援を日常的に感じることができるよう具体的な仕掛けを作っていく。(HP、SNS発信、地域交流、マスコミ対応、活動公開等)	C	B	C	・部活動の加入率は50%程度であったが、ほぼ毎日活動し、充実していると感じている生徒は70%程度であった。生徒・職員が協働し、活動の質を向上させていくための活動報告やリーダー研修などを行っていくことなどが望ましい。		
	IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫学校から家庭へ発信している進路情報、保護者を対象とした進路行事について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。	・PTA総会に入る前に本校の進路状況報告と「進路の手引き」の活用方法についての説明を行う。また、引き続き各学年に対応した進路講演会・保護者説明会を実施する。	B	B	B	「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が80.4%(昨年度70.6%)であった。目標の80%を超えることができたものの、安心するのはまだ早い。引き続き「進路の手引き」を基本とした共通理解のもと、生徒一人一人の進路実現を図りたい。	・適切な進路についての学習や進路指導が実践されていると思う。 ・進路の幅が大きくて、非常にやりにくいポジションの学校だと思ふ。元来進路選択は個人の課題であるが、個々に向き合っている個別に対応している苦労が感じられる。 ・先生方が熱心に話をしたり相談にのってくれると聞いた。
			8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬進路行事や進路学習、担任との二者面談は、進路選択に役立っていると感じている生徒が、90%以上である。	・進路指導部として、引き続き各学年の柱となる進路行事とその事前・事後指導の計画、及び各行事の実施目的を明確にしたLHR計画を作成する。	C	C	C	「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒が、進路関係の行事や探究学習については78.2%(昨年度79.7%)、二者面談については84.6%(同83.8%)、3年生の進路別説明会については82.7%(同86.7%)であった。これらの中でも、特に進路関係の行事や探究学習について、生徒の興味・関心に係る内容とその効果的な実施方法について検討する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭学校から家庭へ発信している通知、便り等について、その時機、内容に満足している保護者が、80%以上である。	・PTA本部役員および学年委員と職員との連携を深めることを通じて、家庭と学校との協力態勢をよりよいものにしていく。そして、PTA行事やPTA便り等における情報発信を一層充実させていく。	A	A	B	・学校から家庭へ発信している通知(メール等を含む)、便り等について、その時期、内容に満足していることについて、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が91.8%であった。PTA総会・役員会等、保護者の意見を学校運営に取り入れる機会として機能するよう運営してきた。今後も、家庭、地域社会、学校で情報交換を密にできるように仕組みを整えていく。	・情報発信、地域での活動、貢献など、よい取組が実践されていると思う。 ・スマート連絡帳の活用やお便り等で学校のことを知らせたいという熱意が伝わってきた。保護者に直に伝える方法をとっていくのが有効だと思われる。中学生へのPRは、ポスターやHPでもいいが、やはり直に交流できるような場があると効果が得られるような気がする。 ・インスタグラムで学校の情報を見られる高校もある。学校公式のアカウントを作成し、発信してみてもどうか。 ・学校から家庭への相互関係がうまく機能している様子である。 ・小学校等の地域密着型の交流事業により、開かれた学校づくりの継続をお願いする。	
		⑮本校のホームページは、進路選択をするうえで役に立っていると感じている中学生が、80%以上である。	・担当者の業務を見直し、合わせて、更新の手順の簡略化を進めることにより、ホームページの更新頻度を増やす。	C	C	C	・進路選択に本校webページが役立ったことについて、生徒の回答は74.6%で昨年度比5%の減となっており、目標達成には至らない。中学生のニーズに合致する工夫をする一方で、実際の中学生がどのような資料を参考に進路決定しているのかについて調査し、今後の広報戦略に活かしていく。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯授業でICT機器を活用が進んでいると感じている生徒が、80%以上である。	・chromebookを使用した授業に対する生徒の経験が高まっている前提を認識する。その上で機器の効果的な活用方法について学校内外の先進的な取り組みに係る情報共有、効果的な活用場面の設定・活用に向けた意識・知識・技術の向上に取り組む。	B	B	B	・アンケートの結果は80.8%となんとか目標を達成したものの過去4年間着実にポイントを減らしている。調べることがネット情報のコピーであり、考えることがA1に考えさせることに終始してしまう現状は大きな課題であり、学習用端末を「使用する」「効果的に活用する」力を身につける指導は急務である。	・高校の授業と小中の授業は全然違うと感じた。小中学校はタブレットを駆使して子どもたちの自発的な活動を促すよう要求されている。高1ギャップはないのだろうかという思いは抱いた。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICTを活用した業務改善が進んでいると感じている教職員が、80%以上である。	・Google Formsの活用を推進し、調査・アンケートのデジタル化並びに集計作業の簡略化を図る。 ・配布資料等をPDF化し、ホームページやGoogle Classroomを活用するなどして、ペーパーレス化を進める。	B	B	B	・アンケートの結果は80%となんとか目標を達成した状況である。ものの過去4年間着実にポイントを減らしている。BYODが実施されて2年、保護者の金銭的な負担によりこの学習環境が実現していること踏まえ、授業における計画的かつ効果的な活用を探究していくことが求められる。	
※各学校が必要に応じて評価対象を加える。									